

地理的分野「日本の諸地域～北陸地方」での実践

地理的分野「日本の諸地域～北陸地方」では、2015年3月に開業した北陸新幹線を先行して取り上げ、「北陸新幹線は富山にとってどうなのだろうか」という課題で討論を行った。この単元は、学習指導要領の地理的分野の(2)ーウ「日本を幾つかの地域に区分し、それぞれの地域の特色ある地理的事象や事柄を他の事象と有機的に関連付けて追究する活動を通して、日本の諸地域の地理的特色をとらえさせる」ことをねらいとしており、(キ)「他地域との結び付きを中核とした考察」から北陸地方を扱ったものである。この考察では「地域の交通・通信網に関する特色ある事象を中核として、それを物資や人々の移動の特色や変化などと関連付け、世界や日本の他の地域との結び付きの影響を受けながら地域は変容していることなどについて考えること」をねらいとしている。富山県にとってよいことなのかどうかを判断するにあたり、その判断のもとになる知識や概念を互いに関連付け、「社会的判断力育成の関係図」として整理した。この関係図を分析することで、判断のための選択の基準が、富山県と他地域との人々の「長距離移動の利便性の有無」や住民の移動手段や観光客の2次交通手段である「近距離移動の利便性の有無」といった『移動の利便性の有無』と、地域間の人々の流動がおこることで発生する『経済波及効果の有無』の2つであることが見えてきた。これを討論の論点とし、授業における指導に生かすようにした。次頁にその関係図を示したい。以下はその授業の実際を示す。

〔授業の実際〕 ○＝よい派 ●＝よくない派

T：新幹線開業は富山にとってどうなのか、意見を申し合ひましょう。

○：私はよいと思う。行ってみたい食べてみたいの調査で富山は1位であるから、人がたくさん来る。

●：私はよくないと思う。地域間格差について、年間商品の売り上げ額が膨大なのは、便利な駅周辺のみである。また、このままでは金沢だけに経済効果が限られるのではないか。

T：こちらは経済波及効果が視点といえますね。こちらは、移動の利便性が視点といえますね。(※1)

○：時間短縮効果がある。富山東京間が1時間も短縮すると、利便性が上がる。

●：逆に負の効果もある。宿泊客が減るのではないか。

○：在来線やライトレールなどの在り方が変わってくる。赤字も危惧されるが、高齢者などへの利便を工夫すれば、十分黒字にできる。

●：新幹線ができると最寄りの路線がすたれてしまう。

○：富山に来るのは多くがお年寄り。ライトレールは彼らの足になっているし、赤字にはならない。

●：富山から関西方面に直接行けなくなる。

T：しばらく作戦タイムをとりましょう。

(3分間 作戦タイム)

T：反論をどうぞ。反論の反論もOKですよ。

○：よくない、に反論します。収益効果はある。新幹線によって在来線は活性化し、街づくり効果もある。並行在来線を使って観光地に人を呼び込む工夫をすれば赤字は打開できる。

○：雪の大谷に行きたい人は全国にたくさんいる。並行在来線に乗って富山市以外にもお金を落としてくれるはずだ。

○：地域がすたれるというが、黒部や高岡からもいろいろな観光地につながっている。いろいろなところとのつながりを強化すればよい。いろいろなものを誘致して、各地で地域を盛り立てる。駅から活性化して復活を図るとよい。

●：よい、に反論です。観光地とつながっているとえど、乗り換えはめんどくさい。金沢へ流れていってしまう。

●：事業とかでお客を呼び込めばいいというが、またお金がかかる。新しいことをした後の効果がどれだけ続くかわからない。利用者も続かないのではないか。

●：富山市以外のところに人気スポットが分布している。地味なスポットにわざわざ足を運ぶのか。

●：JR資産を考えると、交通弱者へのバリアフリーは期待できない。シニアの方は増えない。むしろ減少する可能性がある。

○：新幹線がなければ富山はさらに地味である。富山

県への旅行者には5回以上訪れているという人が多い。富山県は何度も来たくなる県であり、日帰りできる新幹線があれば、効果が見込める。赤字だっすぐに返せる。

●：関東からのお客は30%である。それが直通になっても変わらないのではないかな。

●：観光客が高齢化すれば、直通の方が助かる。これまで多かった関西の客が激減するのではないかな。

●：よい派の人は、関東を見ている。北陸三県は西側に行く人が多い。関東方面には移動方法が3つあり、分散してしまうのではないかな。

○：まっすぐ行くより乗り換えがあった方が気持ちのいい人もいる。

○：気に入っている人は、直通じゃなくても来る。乗り換えの便をよくすれば、人は減らない。その上関東からは増えるのでよい。

○：富山は自然が豊か。東京はビルばかり。直通になると、そういう人が四季を見に来る。

○：富山には自然があり、高齢者にはそれが魅力である。9割の人が富山に来たいと言っている。

●：このデータでは、若い人は富山に興味がない。お年寄りはいずれ亡くなる。そのあとは地味な富山には人は来たがらない。

○：このデータは今の人からとったもの。今の若い世代が50～60代になれば、好きになる。感性は年齢で変わるもの。交通の活性化に期待している。交通の便が良くなれば、人はそっちに流れるものだ。

●：飛行機が衰えることを危惧している。海外にも行けるのに。

○：飛行機は国内線だけではない。海外のを増やせばよい。

●：いい効果が出るとは思えない。僕はライトレールを使っているからわかる。乗る人は6～8時。サラリーマンか学生。おばあちゃんたちは満員過ぎて押し出されている。ピークを過ぎた9～16時は乗車人数は4～5人しかいない。おばあちゃんは少ない。観光目当てで乗る人は2、3人かな。メインはやはり通勤、通学者。これで稼ぐのは難しい。

○：君の言っているのは平日だ。休日なら様子は違う。観光にJRを生かすために、現状は変わっていくかもしれない。観光客はきっと多くなると思う。

T：よい派の打ち出していけばいい点、よくない派のデメリットを生かしていく方法など、こうしていけばよいのではないかなという視点がたくさん考えられたと思います。次の時間はこれをもとに、これからの富山はどうあればよいかを考えてみましょう。

討論の序盤において、話し合いの視点が「移動の利便性」と、「経済波及効果」であることを押さえる(※1)ことで、「反論」や「反論についての反論」がこの2点に絞られ、生徒たちはこの視点で自分の考えを展開している。論点が整理された討論の中で、生徒たちの中には2つの視点を関連付けた考え方をする者も現れ始め、利便性がもたらす経済効果にも目を向けるようになっていった。

この授業後、「もし四国新幹線ができたとしたら、徳島はどうなるだろうか」というポストテストを行った。同じ課題でプリテストを行った際には、「徳島県の人は阪神地区へ行きやすくなる」や「徳島を訪れる観光客が増える」といった答えしかなかったが、ポストテストにおいては「高速交通機関が開通するとストロー効果が起こる可能性がある」「新幹線が開通した地域の在来線の経営は厳しくなる」などの、高速交通網ができることによって起こりうる現象に関する「概念」にまで触れている答えが多くみられるようになった。北陸新幹線の討論を通して獲得した「概念」が転化されている姿である。

「社会的判断力育成の関係図」によって付けさせたい力を明確にし、それに照らして生徒を見取り、指導に生かしたことで、付けさせたい力を付ける効果が高まったといえる。

(2) 教師による授業評価の方法としての「見取り」

① ペーパーテストによる見取り

討論において生徒の思考力・判断力・表現力等がどれだけ身に付いているかどうかを見取るために、討論における価値判断力を問うペーパーテストを開発した。このテストの作成に当たっては、鳴門教育大学の梅津氏の提

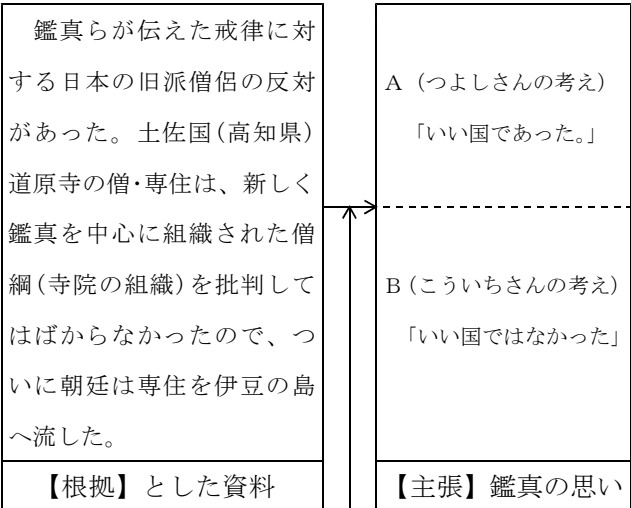
案を土台とし、授業で行った討論を生かしたペーパーテストを開発した。授業でねらいとした力が付いているかどうかを見取るとともに、討論という言語活動が効果的に働いたかどうかを検証するツールとした。

歴史的分野「古代までの日本～奈良時代～」での実践

授業での討論場面を生かしたペーパーテストを作成し、この単元の授業後に実施した。これをもとに、「討論」という言語活動が生徒の思考力・判断力・表現力等を高めるために効果的であったかを検証した。

① 評価問題

「鑑真は奈良時代の日本をどう思ったのだろうか」という問いに対して、(つよしさん)と(こういちさん)は、それぞれ「いい国であった」「いい国ではなかった」と主張した。その主張の「理由付け」を説明しなさい。



そう考えた【理由付け】
(記述欄)

② 評価したい思考力・判断力・表現力等の定義仮説

社会的事象について、他に応用して考え、自ら解決方法を見付け、取捨選択したことを言語化する能力。

③ 評価問題作成の意図

この単元は、学習指導要領では「律令国家の確立に至るまでの過程、摂関政治などを通して、大陸の文物や制度を積極的に取り入れながら国家の仕組みが整えられ、その後、天皇や貴族の政治が展開したことを理解させる」とある。また、「改訂の要点」では、歴史的分野の言語

活動の充実について、「時代を大観し表現する活動を通して、その時代がどのような特色をもつ時代だったのかを捉える学習」つまり「各時代の特色を捉える学習」は「思考・判断や表現などの活動を通じて、歴史について考察する力や説明する力を育てる学習」であると位置付けられている。

本問題は、中学校第1学年の思考・判断・表現の能力を評価しようとしている。授業では、奈良時代の日本の特色を大観するために、「鑑真は奈良時代の日本をどう思ったのか」について判断させ、討論を行った。鑑真を取り上げた理由は、天皇や貴族、農民といった視線では、その立場が直接的であり、現代人の視線では、現代との比較のみで終始してしまうのに対し、鑑真は当時の中国(唐)から来日していることから間接的に、また同時代の中国と比較することで日本の特色を客観的に捉えることができると考えたからである。「鑑真が奈良時代の日本をどう思ったのか」について討論する際の判断基準すなわち「選択する基準」は「鑑真の生い立ちから解釈した鑑真の見方・考え方」を論点とした。この「選択の基準」を明確にした上で、時代の特色を捉えることで、思考・判断・表現する場が生まれると考えた。そして、評価問題で扱う資料は授業では用いられていない資料を用意し、以下の評価基準を設定して出題した。

④ 評価基準

<出題の方法>

授業で扱っていない資料を根拠として新たに準備し、授業で取り上げている主張に収め、選択肢を指定した。

<正答の基準>

- ・【根拠】とした資料中の文言を使って説明している。
 - ・鑑真の見方・考え方を【理由付け】として使っている。
- 鑑真の見方・考え方とは、次の(A)～(C)のことをさす。

- (A)「正式な仏教を広めることに熱心であること」
- (B)「争いを好まないこと」
- (C)「貧民を救済しようとしていること」

<正答例>

A (つよしさんの考え) の場合

- ・鑑真は正式な仏教を伝えたいと強く思っており、朝廷

は鑑真の考えを尊重したと捉えることができるので、日本はいい国であったと思ったから。

※つまり、つよしさんの考えを述べる際は、(A)の視点を使うことになる。

B(こういちさんの考え)の場合

・鑑真は争いが嫌いであり、鑑真を批判してはばからなかった僧がいたということは争いが生じているので、いい国ではないと思ったから。

※つまり、こういちさんの考えを述べる際は、(B)の視点をを用いることになる。

⑤ 実験群と統制群

中学校1学年において、「価値判断を問う討論の授業を行ったクラス」(男子22名、女子18名、計40名、以下「実験群」と「実験群と同じ資料・ワークシートを使ったが、教師による一方的な講義形式の授業を行ったクラス」(男子22名、女子18名、計40名、以下「統制群」)で解答させ、正答率を比較した。

また、この2群は他の調査から見ても等質であり、この問題を解くことは事前に生徒に知らせていなかった。

⑥ 正答の分布

A(つよしさんの考え)の場合			B(こういちさんの考え)の場合		
	実験群	統制群		実験群	統制群
正答率	87.5%	10.0%	正答率	77.5%	7.5%
誤答率	12.5%	65.0%	誤答率	22.5%	57.5%
無答率	0%	25.0%	無答率	0%	35.0%

⑦ ペーパーテスト分析の結果から

他に応用して考え、自ら解決方法を見付け、取捨選択したことを言語化する能力を評価するという点から、授業で扱っていない資料を用いたので、仮説について検討できる問題であったと考えられる。

等質の2群において、実験群の生徒の無答数が0人であったことと、実験群の生徒の正答率が統制群に比べて高くなっていることから、授業を通して付けたい力がしっかりと付いていると評価できる。

実験群の生徒で誤答となったケースは、選択の基準が示されていないものや正しい知識が身に付いていないものがあつた。

選択の基準を示す資料が別紙であつたため、鑑真の生

い立ちについて多少知識に頼つたとも考えられる。

また、歴史的な事象を説明させる際には、正しい知識・理解がないと、説明そのものが成立しない場合もあり、日頃の授業において配慮しなければならない。

IV これまでの研究の成果と課題

この研究を通しての成果は以下のとおりである。

- 社会科において言語活動で身に付けさせたい力とは「社会的事象や問題を読み解く力」であり、この力は価値判断力を高めていくには欠かせないものである。
- 価値判断力を高めるには、事実判断や価値判断を繰り返し経験することが必要である。そのために判断したことを基に「討論」する活動を取り入れることが有効である。
- 言語活動は生徒の思考を可視化し、生徒の社会的認識を深める働きをもつ。中でも「討論」は、互いの考えを関連付ける働きが強く、生徒の思考力・判断力・表現力等を高める効果がある。

言語活動を明確化し充実させることを目指した研究の中で、社会科において身に付けるべき力を明確にできたことは大きな成果である。これを今後の授業改善の手がかりとし、単元ごと、1時間ごとのねらいを明確にしながら「知識」・「概念」や価値判断する力の確実な定着を図っていきたい。ただ、生徒の思考のつながりは見えたものの、生徒一人一人の中でどのように思考が深まり、本質的な理解へと高まっていくのかについては、まだまだ道半ばであるといえる。生徒の思考力・判断力・表現力等のより効果的な育成の在り方について、今後研究を深めていきたいと考える。

(授業者：坂田元丈)

社会的判断力育成にかかわる関係図

(日本の諸地域「北陸地方」 —北陸新幹線開業は、富山県にとってどうなのだろうか— の場合)

